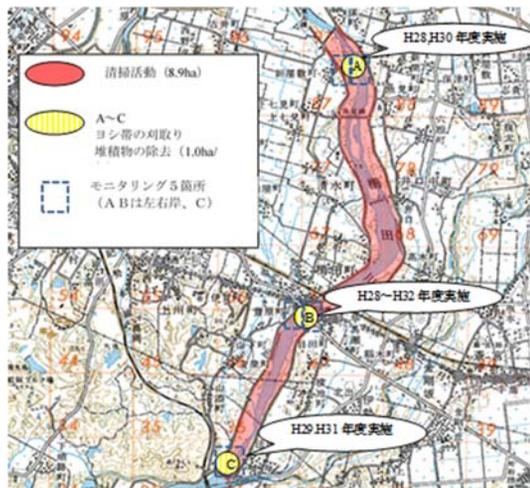


～櫛田川の河川環境と水産資源回復に向けた取り組み～

櫛田川第一漁業協同組合活動組織

地域概要

櫛田川は、三重県松阪市と奈良県東吉野村の境にある高見山を源とし、三重県内を流れ伊勢湾に注ぐ全長 87km の一級河川である。櫛田川には 4 つ漁業協同組合があり、櫛田川第一漁協は櫛田川の下流を管轄している。また、取水堰が 4 箇所あり、アユなどの回遊性魚類の遡上が妨げられている。そのため、当漁協は、遡上時期の稚アユを上流域へ移動させる「アユの汲み上げ放流」を自主的に実施し、櫛田川のアユ資源の保全に努めている。



活動の背景

当該地域では、取水堰が川の流れを阻害し、アユ産卵場となる瀬に砂が堆積するなど河床の悪化が問題となっている。更に、河川敷の荒廃化やごみの不法投棄の増加により親水性の低下が進み、地域住民や子供達の川離れが深刻化している。

このような背景から櫛田川環境の維持・回復を図るため、地域の漁業者が中心となり活動組織を設立した。

活動方針

当組織の活動目的は、櫛田川の清掃活動やヨシ帯の保全、河床耕耘などの環境整備を行い、河川環境の再生と水産資源の回復を図ることである。また、子供達や地域住民が櫛田川の自然環境に触れ合う機会を創出するために、カヌー体験やアユのつかみ取り体験、環境学習を行い、故郷の川の保全を一丸となって行う基盤づくりを行っている。

活動実績

(1) ヨシ帯の保全と河床耕耘

ヨシ帯の保全では、草刈機によるヨシの刈り取りや、重機を用いた整地を行っている。ヨシ帯を整備することによって、ヨシ帯の更新を促し、景観の改善や親水性の向上にもつながっている。



河床耕耘では、上流域から流出し、堆積した砂泥の除去による河道の整備や、河床の沈み石化が進んでいる瀬を掘り返すことにより生物の棲みやすい環境へ整備している。耕耘は重機を用いて行っており、人力では難しい作業も効率よく行っている。

(2) 魚介類のモニタリング調査

ヨシ帯の保全や河床耕耘による環境変化の影響を把握するため、投網とタモ網を用いた魚介類のモニタリング調査を行っている。

(3) 環境学習

地域住民等の川への興味を喚起する活動として、また、ふるさとの川への愛着を感じてもらい、故郷を離れても、子どもの頃の楽しい思い出として残るように、小学生児童とその保護者を対象とした環境学習を行っている。学習会では、河川清掃や川遊び体験(水中観察やカヌー体験)を実施している。

(4) 清掃活動

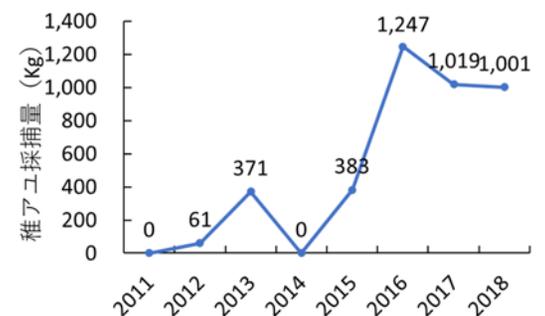
堤外地へのゴミの不法投棄など、景観の悪化が川離れを加速させている。そこで、豊かな櫛田川環境や生態系を回復・持続させるため、清掃活動を行い、景観の回復及び環境の回復に努めている。



活動の成果と課題

(1) 活動の評価

ヨシ帯の保全においては、ヨシ帯の刈り取りを行うことで河川景観が改善された。また、河床耕耘によりアユの産卵場が整備され、稚アユの遡上量が増加している。



環境学習では、川遊びの楽しさや環境保全の大切さを

学び、自然に親しむ良い機会となっている。また、ライフジャケットの着用指導を実施することで、水難事故防止の意識付けにもなっている。

河川の清掃活動は、地域愛を深めるだけでなく地域住民の交流の場となっている。また、ヨシ帯の刈り取りにより見晴らしがよくなったこともあり、粗大ごみの不法投棄が減少するなど有意義な結果となっている。

(2) 今後の課題

ヨシの刈り取りや魚類のモニタリング調査は、危険が伴うため、今までは漁業者だけで行ってきた。しかし、当組織の漁業者は高齢化が進んでおり、肉体的な負担を懸念している。そのため、ヨシの刈り取りや魚類のモニタリング調査は、安全な場所に限りボランティアや一般人が参加できる体制づくりを考えていく必要がある。また、一般人が参加することで、地域住民の河川環境への関心を向上させたいと考えている。

清掃活動やヨシ帯の刈り取り、河床耕耘などの充実した環境整備により、稚アユの遡上量や生息している魚介類が増加傾向にあるが、一方で、オオクチバスやコクチバスなどの外来種の増加や、カワウによる食害が問題となっており、今後、豊かな環境を維持していくためには何らかの対策を講じる必要があると考えている。